

音楽の授業で「指導と評価の一体化」を実践するとは？ —福土幸雄先生（もと岩手県矢巾中校長）にインタビュー

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

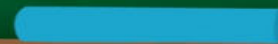
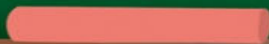
<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年幸生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです



(ご紹介)



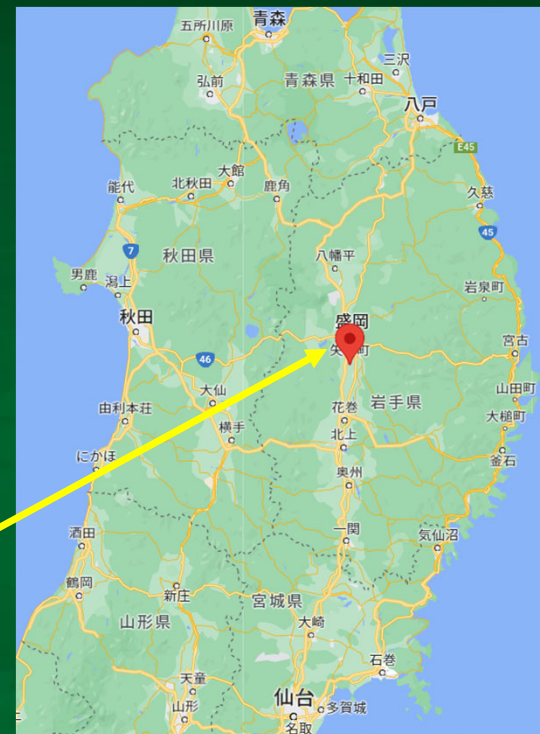
福士幸雄

ふくし ゆきお

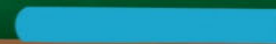
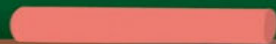
もと岩手県矢巾中学校校長
音楽科教諭

(経歴)

岩手県教育委員会主任指導主事
総合教育センター指導部長



矢巾町



それではご覧ください

学習評価から日々の授業を見つめ直す

岩手県矢巾町立矢巾中学校
校長 福土 幸雄
(令和4年3月定年退職)

学習評価の目的について

▶ 学習評価の目的は多岐にわたるが、ここでは以下の2点に絞る。

① 子どもの学習改善のための学習評価

子どもの立場⇒自分自身の学習状況の把握のため

教師の立場⇒子どもの学習状況の把握のため（成績をつけるため）

② 教師の指導改善のための学習評価

教師自身が授業を見つめ直すための学習評価

教師自身が指導の成果と課題を把握して、自ら改善に努めるため

学習指導要領から音楽の授業を見つめ直す

岩手県矢巾町立矢巾中学校
校長 福土 幸雄
(令和4年3月定年退職)

学習指導要領（音楽）から見えてくる 授業改善、指導改善について

- ▶ 授業を通して身につけさせたい具体的な音楽的な力（資質・能力）とは・・・
- ▶ 音楽の中核となる学力⇒「聴き取ること（知覚）」「感じ取ること（感受）」の両側面
- ▶ 授業例1：歌えバンバン⇒歌唱の指導事項ア（思考等）のみで授業をすると・・・
- ▶ 授業例2：とんび⇒共通事項の指導事項ア（強弱）のみで授業をすると・・・
- ▶ 授業例3：白くまのジェンカ⇒教科の特性に応じると・・・

＜結論＞音楽の授業では、学習指導要領で示す「指導事項」と「共通事項」の両方を位置付けて明確化を図り、さらに絞り込んで焦点化を図り、子どもと共有化できる課題となるよう具体化を図ること

- ▶ 「指導目標や指導内容の曖昧性」や「活動あって学びなし」からの脱却を図ること

おわりに

- ▶ ① 指導目標や指導内容が曖昧になっていないか。
- ▶ ② 指導事項と共通事項の双方が指導目標に位置付いているか。
▶ 指導事項と共通事項の双方が明確化、焦点化、具体化されているか。
- ▶ ③ 「音楽的な感受」が位置付いた指導の流れになっているか。
- ▶ ④ 思考・判断していることが顕在化（可視化）されるような指導が展開
▶ されているか。
- ▶ ⑤ 言葉を中心としながら、音や音楽、身体表現、絵や図、線などで自分の
思考・判断を表出することも含めて指導するよう工夫されているか。